令和２年度

# 事業報告

（令和２年７月１日～令和３年６月 30 日）

特定非営利活動法人

日本国際湿地保全連合

# Ⅰ．事業

## １．調査・研究事業

### 1.1 令和２年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）
**磯・干潟調査**

- 磯・干潟生態系に設置された 14 か所（磯 6 か所、干潟 8 か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データをとりまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターの Web サイトにて公開）。
- 各生態系の専門家による磯分科会及び干潟分科会を開催し、2021 年度以降の業務スケジュールや第 3 期成果とりまとめ方針等に関して検討した。また、各分科会で議論された内容を共有し、共通する課題解決をはかるための沿岸域検討会を開催した。
- 新型コロナウイルスの感染拡大による調査の中止等の大きな影響はなかった。
- 令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度も業務を受注した。
- 盤州干潟サイト（千葉県木更津市）の調査と併せて、国立環境研究所の動画コンテンツ（【夏の大公開 2021】ヒガタ☆マンがゆく～ふしぎな生きものたちを探してみよう）の撮影に協力した。

  *https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=t-theZmHKaU&feature=emb_imp_woyt （7 月 17 日公開）*
- 本事業に参画している研究者が実施する別の研究プロジェクト（環境研究総合推進費等）に貢献する機会を得る等、事業を通じて構築してきた研究者とのネットワークの中で調査・研究の新たな展開が見られた。

  *金谷 弦・多留聖典・久保弘文・阿部博和・磯村尚子・海上智央・伊藤 萌・福森啓晶・青木美鈴・鈴木孝男 (2021) みちのくベントス調査隊、南の島へ行く －2019 年 10 月沖縄島羽地内海のベントス相調査（予報）－. みちのくベントス 5:41-51*

### 1.2 令和２年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）
**アマモ場・藻場調査**

- アマモ場・藻場生態系に設置された 12 か所（アマモ場 6 か所、藻場 6 か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データをとりまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターの Web サイトにて公開）。
- 各生態系の専門家によるアマモ場分科会及び藻場分科会を開催し、2021 年度以降の業務スケジュールや第 3 期成果とりまとめ方針等に関して検討した。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、アマモ場 1 サイトの毎年調査や、5 年ごとに実施するアマモ場の詳細調査が中止または延期となった。
- 令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度も業務を受注した。

- 藻場の志津川サイト（宮城県南三陸町）にて、NHK（ダーウィンが来た：東日本大震災から10年を迎えた沿岸部の藻場変化を紹介）の取材に協力した（2021年3月放送）。
- 藻場調査の研究者と日本藻類学会にて本調査の成果を紹介した（2021年3月）。

  *寺田竜太・阿部拓三・神谷充伸・川井浩史・倉島 彰・長里千香子・坂西芳彦・島袋寛盛・田中次郎・上井進也・青木美鈴（2021）環境省モニタリングサイト1000沿岸域調査における藻場のモニタリング　2020年の成果. 日本藻類学会第45回大会, 東京（東京海洋大学）*
- アマモ場調査の研究者とJapan Geoscience Union Meetingにて本調査の成果を紹介した（2021年6月）。

  *Takehisa Yamakita, Masakazu Hori, Yoshiyuki Tanaka, Misuzu Aoki, Masahiro Nakaoka (2021) Current and future of coastal ecosystem monitoring especially about seagrass beds: basic field observation to policy making, Japan to the international plan. Japan Geoscience Union Meeting, Yokohama, Japan.*

### 1.3 令和２年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト1000）陸水域調査

- 湖沼生態系では、水生植物調査で1か所、淡水魚類調査で3か所の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 湿原生態系では、3 か所の調査サイトで植生調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。また、全10か所の調査サイトで物理環境データの回収、機器の交換を行った。
- 水生植物分科会、淡水魚類分科会、湿原分科会を開催し、今後の事業実施方針や調査結果のまとめ方に関する内容等について検討した。また、各分科会で議論された内容を共有し、共通する課題解決をはかるための陸水域検討会を開催した。
- 2009年度から開始された湿原調査について、これまでに取得されたデータを生物多様性センターのWebサイトにて公開した。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、水生植物調査を実施する予定であった2サイトの調査やサイト代表者の交流や意見交換を目的とした合同調査・意見交換会の開催が延期となった。
- 令和2年度に引き続き、令和3年度も業務を受注した。

### 1.4 令和２年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査

- 東北地方太平洋沖地震の影響による復旧工事などが沿岸域の自然環境に与える影響を把握するためのモニタリング事業の継続について検討するため、モニタリング対象となる干潟及び藻場周辺における工事の進捗状況等の視察や調査関係者の情報を収集し、整理した報告書をまとめた。
- 視察地の一つである岩手県陸前高田市地先の小友浦では、防潮堤建設で生じた残土処理のために干潟が埋められていた。陸前高田市に事実確認後、関係する研究者と相談の上、ベントス学会を通じた工事中止を求める意見書の作成やNHKの取材に助力した。
- 令和3年度業務の入札に参加したが、受注できなかった。

### 1.5 令和２年度生態系を活かした適応策

- 環境研究総合推進費 2-2001「気候変動に対応した持続的な流域生態系管理に関する研究」の概要や成果を一般に伝わりやすい表現・体裁に加工し、ウェブページに掲載した。
  *Wetlands Information （湿地の調査・研究のための情報プラットフォーム） https://wetlands.info/*
- 上記研究者の研究プロジェクトの成果「全国遊水地リスト」の csv ファイルと GIS データおよび内容を説明したメタデータをウェブページに掲載した。
- 本研究プロジェクトが主催したオンラインフォーラム「気候変動時代の自然環境保全と水防災」の開催や動画公開等について技術面から支援した。

## ２．情報提供事業

### 2.1 日本およびアジアにおける気候変動適応および防災・減災に対する湿地の役割とその活用

- 湿地に関する伝統的な Eco-DRR（Ecosystem-based disaster risk reduction）について、日本およびアジア各国の専門家とオンラインミーティングで 6 か国、13 の事例を共有し、日本の専門家と国内の追加事例を検討、調査した。
- 事例収集にあたって作成した独自フォーマットを精査し更新を行った。
- 気候変動適応および防災・減災、湿地等に関する国際的な動向について情報収集を行った。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外の事例に関する現地視察や国際会議での情報収集など一部の活動は延期となっている。

## ３．支援事業

### 3.1 令和２年度ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ運営管理業務

- 2020 年 3 月 25 日に全面リニューアルを行った「ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ（https://www.ramsarsite.jp/index.html）」について、各湿地の定期更新や年 4 回のお知らせ記事の掲載などの管理・運営業務を行った。
- お知らせ記事の内容は以下の通りであった。
  1. 2021 年世界湿地の日記念シンポジウムのお知らせ
  2. 令和３年　渡良瀬遊水地ヨシ焼き実施のお知らせ【中止】（栃木県栃木市）
  3. ラムサール条約国別報告書の公表
  4. 東日本大震災から 10 年が経過した南三陸町志津川湾

### 3.2 令和２年度ラムサール条約国別報告書作成支援業務

- ラムサール条約第 14 回締約国会議（COP14）に向けて環境省がとりまとめるラムサール条約国別報告書の作成支援を行った。
- 業務では、① 国別報告書作成様式の和訳、② ラムサール条約湿地を有する 28 の都道県と

84 の区市町村、及び 16 の NGO へのアンケートの送付、回答の回収、とりまとめ、③ 国別報告書案に関する意見照会・収集、④ 国別報告書の英訳、⑤ アンケート結果等をふまえた湿地管理の課題整理を行った。

### 3.3 令和２年度ラムサール条約における湿地のワイズユース推進のための調査・検討業務

- 国内のラムサール条約登録湿地について、3 か所のラムサール条約湿地情報票（RIS）の更新及び 10 か所の普及啓発パンフレットの改訂を行った。

## ４．普及啓発事業

### 4.1 令和２年度「世界湿地の日」における普及啓発推進業務

- 2021 年 2 月 2 日の「世界湿地の日」のテーマは「湿地と水」であった。ラムサール条約事務局から提供されたポスターおよびパワーポイントの日本語版を作成し、関係者等に提供した。

### 4.2 2021 年「世界湿地の日」シンポジウム開催

- 国連大学サステイナビリティ高等研究所、地球環境パートナーシッププラザとともに「世界湿地の日記念シンポジウム」を 2021 年 2 月 2 日に開催した。2021 年のテーマは「湿地と水」で、Zoom ウェビナーによるオンライン形式で実施した。本ウェビナーでは同時通訳を導入し、国内外から約 180 名が参加した。
- 開催後、当団体のウェブページにて開催報告を掲載した。

  *湿地と水 ｜2021 年世界湿地の日記念シンポジウムを開催*

  *https://japan.wetlands.org/ja/%E3%83%96%E3%83%AD%E3%82%B0/wwd2021_eventreport/*

### 4.3 日本のラムサール条約登録湿地及び湿地に関する定期的な情報発信

- ラムサール条約登録湿地を含む様々な種類の湿地を紹介し、その保全の重要性を多くの人に知らせるため、国内の登録湿地 52 箇所について毎週 1 か所ずつ定期的に紹介するコンテンツ・マーケティング企画を検討した。フォントサイズを大きくしたテキストと映像資料を組み合わせたカードニュース形式を採用し、各湿地の情報を視覚的に表現した。
- 2021 年 5 月 11 日から Facebook と Twitter での発信を開始した。毎週水曜日夕方に投稿を行っており、6 月末までに計 8 件（尾瀬、東よか干潟、渡良瀬遊水地、クッチャロ湖、串本沿岸海域、漫湖、谷津干潟、円山川下流域・周辺水田）を投稿した。
- 8 件の投稿に対するリーチ数（最低 1 回見た人の数）は、Facebook で平均 359（合計 2870）、Twitter で平均 1401（合計 11211）であった。特に、2 件目に取り上げた東よか干潟の投稿は Facebook でのリーチ数が 624 と最大であった。当団体ページのフォロワー数 393 より高い数値で、フォロワーでない多くの人々にも投稿が拡散したといえる。
- Facebook ページ： https://www.facebook.com/WetlandsIntJ (401 フォロワー)
- Twitter： https://twitter.com/wetlandsintj (3,006 フォロワー)